

「親子でファームキャンプ！夏！農涼祭」

1, 趣 旨

親子での農作業や調理体験をとおり、親子関係の絆を育むと共に、子育て支援と家庭の教育力の向上を図る。
また、地域に根ざした食育を促進する。

2, 期 日

平成26年8月23日（土）～8月24日（日）1泊2日

3, 主 催

道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4, 参加対象

親子 50名

5, 参加実績

参加人数 12家族 42名
ボランティア 4名



6, プログラム内容

	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
23日	受付開始 開会式		なかよくなろう	テントを たてよう	収穫野菜で作ろう！ 煮込みハンバーグ			入浴	子ども：星空観察 大人：まったりタイム 全体交流会		就寝
	6	7	8	9	10	11	12	13	14		
24日	起 洗 床 面	野菜たっぷりサン ドイッチを作って 食べよう		テント片 付け	レシピ交換会	11：30 閉会式 11：45 解散					

7, 活動の様子

親子での農作業や調理体験を通して、親子の絆を育むとともに、地域に根ざした食育を推進することを趣旨として、春、夏、秋の3回シリーズの事業。今回はその第2回目。森町近隣市町から、12家族42人が参加した。開会式では、阿部所長から春に植えた野菜が今は大きく育ち、実りの時期を迎えている。天候不順などで一部実入りが良くないものもあるが、家族で協力してきゅうりやピーマン、トマトなどの野菜を収穫して、野外炊事などの活動を楽しんでほしいとの話があった。その後は、四つの「村」でかたまってお互いに自己紹介。前回は時期をずらして2回開催したことから、今回初めて顔を合わす家族もいて、終始和やかな様子。「仲良くなろう」のコマでは、家族間でクイズ形式のゲーム「野菜の名前並べゲーム」などで盛り上がった。ここ数日來の大雨から、野外に立てる予定のテントを体育館の中に立てることにした。家族それぞれ協力し合って立てた。寝るところの支度ができたところで、いよいよ野菜の収穫！参加者の親子全員で、トウモロコシやなすび、ピーマン、シシトウにじゃがいもと、次々に収穫していった。畑のメンテナンスとして何回か通って来ている親子もいて、どの子も慣れた手付きで採っていった。収穫したピーマンやな



すびを手にとどの子も満足げ。最後に畑のあちこちに生えているシソを収穫し、用意したかごに入れて、調理するキャンプサイトに運んだ。

<一般事業>

その後は、それぞれで収穫した採れたての野菜を使って、参加者全員が役割を分担して夕食づくり。メニューは採れたて野菜の入った「煮込みハンバーグ」。家族皆で野菜シチュー、ハンバーグを作った。小さな子どもは慣れない手付きながらも親の手助けを借りながら、こねたり、混ぜたりして作っていった。程よく暖まったコンロでこねたハンバーグを焼き、シチューも温めて、最後に「煮込みハンバーグ」の完成。いい匂いにどの家族も「おいしそう」との声。家族そろって元気に「いただきます」をして、おいしく食べた。何度もおかわりをする子どももいて、自分たちの手作り料理を心ゆくまで味わった。夕食後は、親は「大人のまったりタイム」、子どもは「星空観察」。大人は収穫したカボチャやズッキーニを素揚げにして食べたりして過ごした。子どもは曇り空だったこともあり、プラネタリウムに虫取りと夜の時間を、思い思いに楽しんだ。2日目。朝食は、収穫したトマトなどを使ったサンドイッチ。どの親子も新鮮野菜の食感を味わいながら食べた。その後は、昨日採ったシソから作った「シソジュース」も試飲。参加した親からは、「さっぱりしていて、おいしかったです。」との感想があった。最後に参加者全員でテントを片付けて全日程を終えた。2日間の取組を終えて、どの家族も満足げに手を振りながら、それぞれ帰路についた。

8、参加者の声（保護者アンケートより）

- ・家では絶対食べなかった野菜を、ネイパルではおいしく食べていた。
- ・野菜の入ったスープを食べて。「僕、嫌いだったけど食べれたよ！」と嬉しそうに話してくれた。
- ・食材を切る難しさ、成功体験ができました。自宅ではできない体験ができました。
- ・子どもが村のテントの撤収が終わったら、すすんで他の村のテントの片付けを手伝っていた。
- ・食器洗い、キャンプ道具の片付けなど意欲的に活動していた。「ぼく、キャンプ好きだ！またしよう！」と言っていました。
- ・素晴らしい企画でした。親子共に楽しむことができました。またよろしくお願いします。

9、事業の分析と考察

春、夏、秋と3回のシリーズ事業「親子でファームキャンプ！」では、今回の「夏」がメインとなる。親子の絆を深めるために、それぞれのプログラムについて作業手順を明確にし、特に幼児、小学生低学年、高学年とそれぞれの発達段階に見合った作業内容を割り当てるように工夫をした。その結果、子どもたちは、戸惑うことなく作業を行い、ボランティアや保護者から「上手だね。」「偉いね。」「頑張ってるね。」といった賞賛の言葉ももらい、自信、達成感へとつながった。野菜嫌いだった子どもも美味しそうに食べている様子は、保護者にとっても子どもの新たな一面を見ることができ、親子の絆を深める交流ができたと考察する。不安定な天候だったために日程、プログラムの変更があったが、家族間のコミュニケーション、保護者の理解があり、スムーズに運営することができた。シリーズ最終回では、家族間の交流を更に深められるようにプログラムを工夫していきたい。

10、成果と課題

○成果

- ・テント設置では、1家族1テントをたてるのではなく、グループで協力して複数のテントをたてる方法 家族間の交流もできよかった。
- ・子どもの発達段階に適した作業内容を指示、指導することで子ども達の達成感、成功体験をより高めることができた。
- ・野外での炊事、非日常体験は、子どもたちの野菜嫌いなどの先入観を払拭することができた。

▼課題

- ・ハンバーグをこねる作業などを素手で行っていたが、「衛生的に心配。」という意見があった。手袋の着用など衛生面の配慮をしなければならない。